

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特講
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	社会福祉の転換期にあつて、社会福祉とソーシャルワークの立ち位置が揺らいでいる。社会福祉に身を置く実践者・研究者として「ぶれてはならないこと」を明確にしながらかつて先行研究を検討し、自身の研究テーマの中で社会福祉とソーシャルワークのあり方を提起できようように授業を進める。
到達目標	高齢者福祉領域・障害者福祉領域・貧困領域を中心としたメゾ・ソーシャルワークの実践上を研究領域として、以下の3つを目標とする。 1. 社会・政策的要請とソーシャルワークの関係を批判的に考察できる。 2. メゾ・ソーシャルワークの実践方法、課題と問題点が理解できる。 3. 各自の研究テーマと研究方法が設定できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第3回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第4回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第5回：研究のアウトラインの検討</p> <p>第6回：研究テーマにかかわる先行研究のリストアップ</p> <p>第7回：研究テーマにかかわる研究動向の整理</p> <p>第8回：代表的な先行研究のレビュー①</p> <p>第9回：関連資料の活用の検討</p> <p>第10回：研究領域における政策と実践現場の動向</p> <p>第11回：研究テーマの国際比較</p> <p>第12回：代表的な先行研究のレビュー②</p> <p>第13回：研究計画書の作成①</p> <p>第14回：研究計画書の作成②</p> <p>第15回：今後の取り組み課題の検討と整理</p>

学修方法	院生による発表形式で行う。				
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した課題への取り組み。(40分) 事後学修：講義内容を振り返り整理する。(40分)				
オフィスアワー	研究室(2705)にて相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特講
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	社会福祉の転換期にあつて、社会福祉に身を置く実践者・研究者として依つて立つべき価値・理念を足場に、先行研究を検討し、自身の研究テーマの中で社会福祉とソーシャルワークのあり方を提起できように授業を進める。
到達目標	<p>院生が直面する、あるいは関心をもつ「現状」について、それを規定する社会福祉政策を読み解き、あらためて「現状」を分析・理解し、ソーシャルワークのあり方を含め今後を展望する、という研究実践を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院生自身の問題意識に関わる先行研究を探索、分析・整理し、研究テーマ設定ができる。 2. 研究テーマに関連した政策、その背景にある社会経済状況等を理解し、規定関係を説明できる。 3. 研究テーマを解明するための研究方法を設定できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第3回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第4回：研究テーマや研究関心にかかわる文献紹介、検討課題発表</p> <p>第5回：研究のアウトラインの検討</p> <p>第6回：研究テーマにかかわる先行研究のリストアップ</p> <p>第7回：研究テーマにかかわる研究動向の整理</p> <p>第8回：代表的な先行研究のレビュー①</p> <p>第9回：関連資料の活用の検討</p> <p>第10回：研究領域における政策と実践現場の動向</p> <p>第11回：研究テーマの国際比較</p> <p>第12回：代表的な先行研究のレビュー②</p> <p>第13回：研究計画書の作成①</p> <p>第14回：研究計画書の作成②</p> <p>第15回：今後の取り組み課題の検討と整理</p>

学修方法	院生による発表形式で行う。				
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	必要に応じて授業の中で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した課題への取り組み。(40分) 事後学修：講義内容を振り返り整理する。(40分)				
オフィスアワー	研究室(2606)にて相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特講演習
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	特講演習は、これまでに獲得した知見と特講での取り組みを土台に、文献・資料を精査し、研究課題をさらに明確にし、博士論文への取り組みに反映させる。具体的には、研究成果の発表、質疑応答、議論を通して院生どうしの研究課題と取り組みを共有しながら、各自の研究方法与進捗状況を確認するための演習とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究課題を明確化しながら、他院生の取り組みから学び吸収する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 先行研究や資料を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：研究テーマを設定し発表する。</p> <p>第 3 回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。</p> <p>第 4 ～13 回：検索した文献・資料を精読し（海外論文を含める）、発表を行い、質疑応答を重ねる。様々な研究手法をレビューし、自身が用いる研究方法を明確にしていく。</p> <p>第 14～15 回：研究への取り組みをまとめ、各自の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。</p>

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	授業内外で随時フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)				
オフィスアワー	川向研究室 (2705 研究室) にて自由に相談に応じる。面談時間については、初回授業時に提示する。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特講演習
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	特講演習は、これまでに獲得した知見と特講での取り組みを土台に、文献・資料を精査し、研究課題をさらに明確にし、博士論文への取り組みに反映させる。具体的には、研究成果の発表、質疑応答、議論を通して院生どうしの研究課題と取り組みを共有しながら、各自の研究方法与進捗状況を確認するための演習とする。
到達目標	1. 各自の研究課題を明確化しながら、他院生の取り組みから学び吸収する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 先行研究や資料を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：研究テーマを設定し発表する。</p> <p>第 3 回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。</p> <p>第 4 ～13 回：検索した文献・資料を精読し（海外論文を含める）、発表を行い、質疑応答を重ねる。様々な研究手法をレビューし、自身が用いる研究方法を明確にしていく。</p> <p>第 14～15 回：研究への取り組みをまとめ、各自の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。</p>

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	授業内外で随時フィードバックを行う。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書	必要に応じて授業の中で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)				
オフィスアワー	研究室 (2606) にて相談に応じます。時間については、初回授業時に提示する。				

科目名	高齢者福祉特講
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	本特講は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者(障害高齢者含む)の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を考究する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本社会の人口動態の変化に伴う高齢者福祉ニーズを理解する。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 老親扶養の家族と公私の役割機能に関する問題点と課題について理解する。 4. 高齢者に関する制度・政策について内容理解と共に、史実的な理解を深める。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： 高齢者・障害者福祉の課題</p> <p>第 2 回： 高齢者福祉の起源と変遷</p> <p>第 3 回： 高齢者福祉の社会的役割</p> <p>第 4 回： 現代日本社会における、高齢者(障害高齢者含む)福祉のニーズ</p> <p>第 5 回： 現代日本社会における、高齢者福祉の機能</p> <p>第 6 回： 介護保険の発足とその仕組み</p> <p>第 7 回： 介護保険の役割と機能</p> <p>第 8 回： 介護保険運用の実態と現在の課題</p> <p>第 9 回： 日本の高齢者福祉問題の諸相</p> <p>第 10 回： 超高齢社会日本の今後の課題</p> <p>第 11 回： 欧米先進諸国の高齢者福</p> <p>第 12 回： 欧米福祉国家の高齢者福祉の類型</p> <p>第 13 回： アジア諸国の高齢者福祉と課題</p> <p>第 14 回： 介護従事者と外国人労働の課題</p> <p>第 15 回： 高齢者・障害者福祉の課題解決の方策</p>

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談またはWebclassにて課題に対するフィードバックを行います。				
指定図書	指定図書はない。随時指定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)				
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室(2706研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	高齢者福祉特講演習
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及、および課題の整理を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究課題を明確化する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、当該セメスターの達成目標を定める。</p> <p>第 2 回：履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。</p> <p>第 3 回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。</p> <p>第 4～13 回：検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。様々な研究手法について通読する。</p> <p>第 14～15 回：今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。特に研究テーマに合致する海外論文（英文）のレビューを行う。</p>

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談またはWebclassにて課題に対するフィードバックを行います。				
指定図書	指定図書はない。随時指定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
事前・事後学修	事前学習：先行研究のまとめを、簡単な論文形式にした発表資料を作成の上、講義に臨む。(60分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(20分)				
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室(2706研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	子ども家庭福祉特講
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる
科目概要	本特講は、ソーシャルワークと臨床心理学の観点から、子ども虐待について再考する。子ども虐待防止として多くの対策が次々と打ち出されていく中であらためて現状への検証を加え、子育てに孤立感を抱く保護者やネグレクト状態の家庭への支援を切り口として、現代の子どもおよび家庭における問題を総合的に考察する。
到達目標	子ども虐待の問題を中心に、制度・実践の両面からその対応のあり方について考察することにより、以下の3つの目標を目指す。 1 現代の子どもと家庭が置かれている環境および課題を理解する。 2 子どもと家庭に関わる専門性の高いソーシャルワーカーとしての実践力を培う。 3 各自の研究テーマと研究方法を設定できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第3回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第4回：院生の研究テーマや研究関心にそった文献紹介、検討課題発表、ディスカッション 第5回：研究テーマ、研究領域、研究方法のアウトライン 第6回：研究テーマに関わる先行研究のリストアップ 第7回：研究テーマに関わる学会動向における特徴や傾向、問題点と課題 第8回：代表的な先行研究の分析と評価 第9回：論文の主要概念および研究枠組みの検討 第10回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価 第11回：子ども家庭福祉における研究テーマに関わる実態と政策動向 第12回：代表的な著作の選択と根拠 第13回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価 第14回：子ども家庭ソーシャルワークの課題 第15回：博士論文の構成、活用すべき資料の整理と検討</p> <p>子ども家庭福祉特講は、院生の研究テーマ、関心のある分野・領域に関連した事柄を取り上げ進める。前半の第1回～4回は、関連分野の最新の論文を抄読し、研究課題とその解決理論と方法について討議を行う。</p>

学修方法	発表と討議で進める。				
評価方法	発表レポート 60%、授業中の討議・演習への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	発表、討議におけるフィードバックを行う。 また、課題提出後には、面談を設けてフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	必要に応じて紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：参考資料や論文を熟読し、疑問点等を考える。 事後学習：発表担当者はレジュメにまとめ、参考文献等を読む。授業での討議等をまとめる。				
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2号館6F2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。				

科目名	子ども家庭福祉特講演習
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる。
科目概要	本演習では、博士論文作成に向け、院生とのディスカッションを中心に行う。特に、論文のテーマに関する主要概念や研究枠組みの検討を行い、研究方法の独自性や先見性を問いながら進める。具体的には、文献や先行研究を調べてまとめ、発表と討議を行い、これらを通して知識を深めていく
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究や文献を検索し、講読し概要をまとめる。 2. 研究目的と方法を明確にして、研究計画書を作成する。 3. データの収集や分析について理解し、考察を発表する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>授業日程等については、受講者と相談しながら調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 先行研究や文献の調査・講読・概要のまとめ 3. 研究計画書の作成 4. データ収集のための様々な方法 5. データの分析と結果・考察のまとめ方

学修方法	発表と討議で進める。				
評価方法	発表レポート 60%、授業中の発表・討議・演習への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	発表、討議におけるフィードバックを行う。 また、課題提出後には、面談を設けてフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	必要に応じて紹介する。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：参考資料や論文を熟読し、疑問点等を考える。 事後学習：発表担当者はレジュメにまとめ、参考文献等を読む。授業での討議等をまとめる。				
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2号館 6 F2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。				

科目名	社会福祉学特別研究
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	6 単位 (180 時間) 選択 通年
科目の位置付	4. 自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる 5. 自らの研究を発展させ、研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ、発表することができる 7. 学際的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と学術的な研究交流ができる
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各院生は特定の研究課題を選定し、研究計画書の作成、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する。その一連の過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮については第三者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。
授業計画	1 年次春semester： <授業内容・テーマ等>保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講、前期課程開講の社会調査特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法>討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%） 1 年次秋semester： <授業内容・テーマ等>研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。 <評価方法>発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%） 2 次春semester： <授業内容・テーマ等>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。 <評価方法>研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%） 2 次秋semester： <授業内容・テーマ等>適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。 <評価方法>データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%） 3 年次春semester： <授業内容・テーマ等>適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する <評価方法>データ分析の論理性・技法の適切性（100%） 3 年次秋semester： <授業内容・テーマ等>第3者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。 <評価方法>論文の完成度(70%)第3者の評価による修正の適切性(30%)

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義				
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等でフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した授業内容に沿った該当箇所の学修（60分） 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく（60分）				
オフィスアワー	初回授業時に提示				